

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M212Q205		慢性期看護方法論 (Chronic Nursing Practice)					成人看護学							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	2	医学部看護学科	前期 後期	水1,木1	日本語		複数(共同)、オムニバス						
担当教員	氏名 脇 幸子・大野夏希・佐藤昂太郎・末弘理恵 看護部 糖尿病看護認定看護師 糖尿病療養指導士 E-mail syamasit@oita-u.ac.jp 内線 5052													
授業の概要	“慢性の経過をたどる人への看護”として、慢性疾患の特徴を踏まえ、病みの軌跡理論を用いて予防、安定期・急性増悪期・進行期に焦点を当て、生活習慣病、がん、難病、感染症などの慢性疾患やその治療が、成人期という発達過程にある対象の生活に及ぼす影響を全人的にとらえ、地域で長期に療養生活を送る個人や家族への看護について学ぶ。また、実践する力を養うために看護過程を用いた事例演習を含める。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	予防の観点から病みの軌跡の中での主に成人保健の意義や動向、対策を説明する。											○		
目標2	慢性の経過におけるヘルスケアシステム、医療の継続、多職種連携、社会資源について説明できる。											○		
目標3	セルフケアをしながら慢性の経過をたどる人を全人的に捉え説明できる。							○						
目標4	慢性の経過をたどる人の病態や治療・検査、生活に応じた看護を説明できる。							○		○				
目標5	看護過程を用いて慢性の経過をたどる人への病みの軌跡と看護を説明できる。							○		○				○
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4		3		2		1
授業の内容														
1	慢性の経過をたどる人への看護の概説(病みの軌跡、セルフケア理論、看護過程、災害看護)													
2	予防・安定期)代謝障害:糖尿病のある人への看護:0~3次予防の実際、疾病予防からや合併症予防													
3	予防・安定期)代謝障害:糖尿病のある人への看護:食事・薬物・運動療法を受ける人への看護													
4	予防・安定期)肝機能障害:慢性肝炎・肝がんのある人への看護													
5	予防・安定期)循環障害:高血圧・虚血性心疾患・慢性心不全のある人への看護													
6	予防・安定期)体液調整障害:慢性腎不全を持つ人への看護													
7	予防・安定期)換気障害:慢性呼吸不全のある人への看護													
8	予防・安定期)患者体験演習(フットケア・インスリン自己注射・自己血糖測定、食事療法・運動療法の実際)													
9	急性増悪・進行期)内分泌機能障害:甲状腺機能亢進症、甲状腺がんを持つ人への看護													
10	急性増悪・進行期)免疫機能障害:血液がんのある人への看護													
11	急性増悪・進行期)免疫機能障害:血液がんのある人への看護													
12	急性増悪・進行期)免疫機能障害:感染症・エイズ、アレルギー疾患のある人への看護													
13	急性増悪・進行期)自己免疫:全身エリテマトーデス・関節リウマチ(運動機能障害)を持つ人への看護													
14	急性増悪・進行期)消化器障害:潰瘍性大腸炎やクローン病を持つ人への看護													
15	急性増悪・進行期)ALSを持つ人への看護													
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	○ A:授業終了時の授業評価・小テスト					工夫その他の実験	*事例や動画、社会資源や医療器具の実物を提示し慢性疾患をもつ人のイメージをつける。 *慢性疾患をもつ人のセルフケア行動を理解するために患者体験を実施する。 *Moodle活用 小テスト						
	B:意見の表現・交換	○ B:発問・グループワーク・課題レポート												
	C:応用志向	○ C:事例検討・患者体験												
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		演習および課題レポートに向けての準備(1h)											
	事後学修		演習および課題レポートの作成・グループワーク(11h)											
	想定時間合計		12											
教科書	任和子他 病期・発達の視点でみる疾患別看護過程 照林社 2020 ISBN-10: 479652522 X 鈴木志津枝 藤田佐和 編集 成人看護学 慢性期看護論 第3版 2014(第7刷2020) NOUVELLE HIROKAWA ISBN 978-4-86174-078-7 野崎真由美他 看護学テキストNICE 成人看護学 成人看護技術 第3版 南江堂 2022 ISBN:978-4-524-22954-3													
参考書	適宜提示する													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験		65%	○	○	○	○						
	演習の課題レポート		35%			○	○	○					
注意事項	特になし												
備考	授業評価シートの提出をもって出席状況を確認する												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	脇幸子（看護師、大分県糖尿病療養指導士会）、末弘理恵（看護師）、大野夏稀（看護師・保健師）、がん看護専門看護師）・佐藤昂太郎（看護師・保健師）												
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○												
教員以外 の指導に関 わる実務経 験者	糖尿病看護認定看護師 大分県糖尿病療養指導士会 インスリン注射製造メーカー 自己血糖側の製造メーカー												
実務経験を いかした教 育内容	教員は附属病院や地域の病院での経験を活かし、教員以外では患者体験演習のうち、フットケア・インスリン自己注射・自己血糖測定についての演習時のファシリテートをする。												